

秋田城の成立・展開とその特質

History of Akita Castle

熊谷公男

KUMAGAI Kimio

はじめに

①秋田城前史

②秋田出羽柵の段階

③城制秋田城の段階

④郡制秋田城の段階

おわりに

【論文要旨】

最北の城柵秋田城は、古代城柵のなかでも特異な存在であり、また歴史的にも大きく性格が変化する点で興味深い存在である。本稿は、秋田の歴史への登場から元慶の乱まで秋田城の歴史をたどり、秋田城の歴史的特質を明らかにしようとするものである。

秋田城の起源は天平五年（733）に出羽郡から秋田村に移転した出羽柵である。この秋田出羽柵は、律令国家の版図のなかで北に突出した場所に位置し、北方交流の拠点であったが、通常の城柵とちがいで領域支配は著しく未熟であった。その後、仲麻呂政権の城柵再編策によって桃生城・雄勝城が造営されると、出羽柵は秋田城と改称され、陸奥国と駅路で結ばれて、孤立した立地はある程度改善されるが、領域支配の強化が蝦夷との対立をまねいて防備が困難となり、宝亀初年には出羽国から秋田城の停廃が要請される。中央政府もそれを承認するが、まもなく三十八年戦争が勃発し、城下住民が南の河辺郡への移住を拒んだために廃城は先送りされる。

山道蝦夷の制圧を前提とした桓武朝の城柵再編が秋田城の歴史の大きな転機となる。胆沢城・志波城の造営によって陸奥国の疆域がようやく秋田城と同じラインまで北進し、また払田柵（第二次雄勝城）が造営されたことで、秋田城の孤立した立地が解消される。さらに秋田郡が建置されて、通常の城柵のように城司一郡司の二段階の城柵支配が行われるようになる。その後、城司の支配がおよぶ「城下」が米代川流域にまで拡大され、秋田城の支配体制が飛躍的に強化される。その結果、百姓の「奥地」への逃亡や、城下の蝦夷村の収奪強化などの新たな矛盾が生まれる。これは一方で「奥地」（米代川流域・津軽地方）の社会の発展を生み出すが、もう一方で城下の蝦夷村の俘囚たちの反発をまねき、やがて元慶の乱が勃発する。

【キーワード】最北の城柵、北方交流、出羽国府、停廃問題、城柵再編、城下支配